

学校設定科目「総合科学」第1学年対象 2単位

- ・評価規準は「Sagacity」の指標である「① 科学的であること (Scientific)」、「② 高度かつ専門的であること (Academic)」、「③ 国際的であること (Global)」、「④ 主体的・自律的であること (Autonomous)」の4指標ごとに設定している。
- ・本科目のねらいが、生徒に、課題研究に取り組むための科学的な探究方法についての知識や技能を習得させるとともに科学的な問題発見・問題解決能力の基礎を身に付けさせることであるため、評価規準は第2学年・第3学年で課題研究を行う学校設定科目「AS 科学探究Ⅰ」・「AS 科学探究Ⅱ」の評価規準に準拠している。なお、国語科、公民科、数学科、理科、英語科の教員各1名が担当し、5クラスをリレー形式で授業を行うため、科目ごとに評価規準を設定している。
- ・評価基準Cは、一律に「評価基準Bに到達していないもの」としている。

指標① 科学的であること (Scientific)

評価規準	S	A	B	C	科目名
研究の構想・計画	先行研究との関連や成果の意義を踏まえつつ、それらを多角的・複合的な視点からとらえ、新規性をもった仮説を設定することができる。	先行研究の分析から、新規性をもった仮説を設定することができる。	研究テーマや研究の目的に沿った仮説を設定することができる。		国語科
	科学的な研究と「調べ学習」の違いについて理解し、研究テーマもしくは研究の目的に沿った仮説を設定できる。	科学的な研究と「調べ学習」の違いについて理解している。	科学的な研究と「調べ学習」が異なることを理解している。		公民科
	人文科学の課題や分野について、自ら問いを発見し、明確なリサーチクエスチョンを立てることができる。また、先行研究を踏まえた上で、研究を実行する意義を具体的に述べることができる。	人文科学の課題や分野について、自ら問いを発見し、リサーチクエスチョンを立てることができる。また、先行研究を踏まえた上で、研究を実行する意義をある程度述べるることができる。	人文科学の課題や分野について、自ら問いを発見し、リサーチクエスチョンを立てることができる。また、研究を実行する意義を抽象的であるが述べるることができる。		英語科
研究の遂行	文献研究の意義を理解し、引用などの手法等の公正性に留意しつつ、自らの設定した課題に対する考えを具体的かつ創造的に提案できる。	文献研究の意義を理解し、引用などの手法等の公正性に留意しつつ、自らの設定した課題についての考えを提案できる。	文献研究の意義を理解し、引用などの手法等の公正性に留意しつつ、研究を進めることができる。		国語科
	人文社会科学分野における科学的手法の意義について理解し、研究を遂行する際に科学的な手法を用いようとする。	人文社会科学分野における科学的手法の意義について理解している。	人文社会科学分野における研究においても科学的手法を用いられることを理解している。		社会科
	定量研究・定性研究の一般的な手法を十分に理解している。また、任意のリサーチクエスチョンについて、適切な手法を選択し、具体的な研究計画を作成することができる。	定量研究・定性研究の一般的な手法をおおむね理解している。また、任意のリサーチクエスチョンについて、おおむね適切な研究計画を作成することができる。	定量研究・定性研究の一般的な手法をおおむね理解している。また、任意のリサーチクエスチョンについて、不十分な点は多く見られるが、研究計画を作成することができる。		英語科
論文の構想	仮説に基づいた研究の構想をまとめていくことを想定し、適切な論理の構築や章立ての	仮説に基づいた研究の構想をまとめていくことを想定し、論理の構築や章立ての設定	仮説に基づいた研究の構想をまとめていくことを想定することができる。		国語科

	設定をすることができる。	を考慮することができる。			
研究倫理についての理解	人文社会科学分野における科学的な研究方法や解釈の妥当性が、社会に与える影響について理解し、研究遂行の際に公正であることができる。	人文社会科学分野における研究において科学的な研究方法や解釈の妥当性が、社会に与える影響について理解している。	人文社会科学分野における研究が社会に影響を与えることを理解している。		公民科
考察対象の設定	源問題などの証明を参照しながら数値を文字に置き換えることで、証明ができそうな命題として一般性の高い命題を設定することができる。また、考察を進めながら、考察対象に修正を加えることができる。	源問題などの証明を参照しながら数値を変えて、証明ができそうな命題を設定することができる。また、考察を進めながら、より一般的な命題について考察しようとする。	源問題などの数値を変えて命題を書くことができる。また、考察を進めながら、その命題が証明できそうであるかについても検討しようとする。		数学科
考察の手法（ミクロ）	数学的な手法を用いて課題の解決や事象の分析をし、適切にその内容を表現することができる。	数学的な手法を用いて課題の解決や事象の分析をすることができる。	数学的な手法を用いて課題の解決や事象の分析をしようとする。		数学科
考察の手法（マクロ）	数学の研究手法や数学を用いた事象の分析方法について、活動を通して知り、それを将来の自身の研究活動と結びつけて想像することができる。	数学の研究手法や数学を用いた事象の分析方法について、活動を通して知ることができる。	数学の研究手法や数学を用いた事象の分析方法について、活動を通して知ろうとすることができる。		数学科
Argumentation の論理性	十分な科学的根拠(Warrant)に基づいて自分の主張 (Claim) を論理的に説明できる。	十分な科学的根拠(Warrant)に基づいて自分の主張 (Claim) を説明できる。	適当な科学的根拠(Warrant)に基づいて自分の主張 (Claim) を説明できる。		理科
Argumentation の科学との関係性の認識	Argumentation は科学のはたらきにおいて重要な能力として十分認識している。	Argumentation は科学のはたらきにおいて必要な能力として認識している。	Argumentation は科学のはたらきにおいてある程度必要であると認識している。		理科
課題研究推進に当たって Argumentation の果たす役割の認識	有効な方法によって Argumentation することは研究結果や結果に基づいて考察するときに変重要であることを認識している。	有効な方法によって Argumentation することは研究結果や結果に基づいて考察するときにある程度重要であることを認識している。	有効な方法によって Argumentation することは研究結果や結果に基づいて考察ときに重要であることを認識している。		理科

指標② 高度かつ専門的であること (Academic)

評価規準	S	A	B	C	科目名
文献研究に関する知識・技能	課題を探究するための文献研究に対する高度かつ専門的な知識及び技能を十分に有している。	課題を探究するための文献研究に対する知識及び技能を有している。	課題を探究するための文献研究に対する知識を有している。		国語科
価値の創出	事象や課題について実社会とのつながりを明確に意識して深く探究し、得られた成果を適切に言語化することができる。	事象や課題について深く探究し、得られた成果を言語化することができる。	事象や課題について考え、得られた成果を言語化することができる。		国語科
科学的な知識・技能	課題について探究するためには、その分野に関する高度かつ専門的な知識および技能が必要であることを理解し、課題について	課題について探究するためには、その分野に関する高度かつ専門的な知識および技能が必要であることを理解している。	課題の探究がその分野に関する専門的な知識に基づいて行われることを理解している。		公民科

	考察するための科学に関する知識を学ぼうとしている。				
	人文科学に関する高度かつ専門的な知識及び技能を十分に有している。	人文科学に関する高度かつ専門的な知識及び技能を十分に有している。	人文科学に関する知識及び技能を十分に有している。		英語科
機器の利用	インターネットを用いて専門的な情報にアクセスする際の注意点を理解し、必要な情報を収集することができる。	インターネットを用いて専門的な情報にアクセスする際の注意点を理解している。	インターネットを用いて専門的な情報にアクセスすることができることを理解している。		公民科
	インターネットを用いた情報収集やコンピュータを活用した数値実験の有効性や問題点を知り、必要な情報を効率よく収集したり数値実験をしたりすることができる。	インターネットを用いた情報収集やコンピュータを活用した数値実験の有効性や問題点を知ることができる。	インターネットを用いた情報収集やコンピュータを活用した数値実験の有効性を知ることができる。		数学科
周辺知識の収集	課題について考察するための科学に関する知識および技能を有しており、必要に応じて関連内容を調べ、考察にかかすることができる。	課題について考察するための科学に関する知識および技能を有しており、必要に応じて関連内容を調べることができる。	課題について考察するための科学に関する知識および技能を有している。		数学科
Argumentation の技能	主張 (Claim) ,データ (Data) ,根拠 (Warrant) それぞれをすべて活用して Argumentation することができる。	主張 (Claim) ,データ (Data) ,根拠 (Warrant) のいずれかを的確に用いて Argumentation することができる。	主張 (Claim) ,データ (Data) ,根拠 (Warrant) のいずれかを用いて Argumentation することができる。		理科

指標③ 国際的であること (Global)

評価規準	S	A	B	C	科目名
協働	多様な価値観の違いを尊重して自他の向上的変容を目指し、論理的に意見をやり取りして建設的な議論を行い、共通の目標に向けて協働し、より高次の相互理解や合意形成を図ることができる。	多様な価値観の違いを尊重して、論理的に意見をやり取りして建設的な議論を行い、共通の目標に向けて協働することができる。	多様な価値観の違いを想定して、論理的に意見をやり取りして建設的な議論を行うことができる。		国語科 数学科
	多様な価値観の違いが生む対立の構造を理解し、共通の目標に向けて協働することの意義を理解できる	多様な価値観の違いが生む対立の構造を理解している。	多様な価値観の違いにより対立が生じることを理解している。		公民科
	あるトピックについて、様々な視点から考察を加えることができる。また他者の意見を柔軟に受け入れ、他者に対して建設的なアドバイスをすることができる。共通の目標に向けて、他者と積極的に協働することができる。	あるトピックについて、様々な視点から考察を加えることができる。また他者の意見を柔軟に受け入れ、他者に対してアドバイスをすることができる。共通の目標に向けて、他者と協働することができる。	あるトピックについて、様々な視点から考察を加えることができる。共通の目標に向けて、他者と協力することができる。		英語科
合意形成	合意形成における、論理的な意見のやりとりの意義を理解し、取り組もうとしている。	合意形成における、論理的な意見のやりとりの意義を理解できる。	合意形成において、論理的な意見のやりとりが必要であることを理解している。		公民科
Argumentation に	文献調査や他者との Argumentation におい	文献調査や他者との Argumentation におい	文献調査や他者との Argumentation におい		理科

おける使用言語	て言語 (特に英語) 能力は大変重要であることを認識している。	て言語 (特に英語) 能力は重要であることを認識している。	て言語 (特に英語) 能力はある程度重要であることを認識している。		
---------	---------------------------------	-------------------------------	-----------------------------------	--	--

指標④ 主体的・自律的であること (Autonomous)

	S	A	B	C	科目名
困難への対応	様々な事象に関心を持ち、自身の関心と研究の意義を有機的に関連させ、困難と思われる課題に対してもより良い解決に向けて、主体的に粘り強く取り組むことができる。	様々な事象に関心を持ち、自身の関心と強く結びつく研究課題に対して、主体的に粘り強く取り組むことができる。	様々な事象に関心を持ち、自身の関心と関連する研究課題に対して、主体的に取り組むことができる。		国語科
	自己の関心を広げ、自らの研究テーマを科学的な研究の意義を関連付けながら批判的に検討できる	自己の関心と自らの研究テーマを科学的な研究の意義を関連付けながら検討できる。	自己の関心をもとに科学的な研究のテーマを検討できる。		公民科
意思決定	研究を批判的に評価・改善して多様な意見を踏まえて意思決定を行うことができる。	研究を批判的に評価・改善することができる。	研究を評価・改善しようとしてきている。		国語科
	任意の課題や分野について、自ら問いを発見し、明確なリサーチクエスチョンを立てることができる。	任意の課題や分野について、自ら問いを発見し、リサーチクエスチョンを立てることができる。	任意の課題や分野について、自ら問いを発見することができる。		英語科
粘り強い 試行錯誤	課題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に取り組むことができる。また、自身の解決を振り返ることで、より一般的な命題について考察するとともに、収集した知識をもとにしてクラスルーム内で新奇性の高い考察をしようとするすることができる。	課題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に取り組むことができる。また、自身の解決を振り返ることで、より一般的な命題について考察することができる。	課題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に取り組むことができる。		数学科
Argumentation への主体的参加姿勢	Argumentation を通して自分の主張 (Claim)への reflection を必要かつ十分に図っている。	Argumentation を通して自分の主張 (Claim)への reflection をある程度図っている。	Argumentation を通して自分の主張 (Claim)への reflection を図っている場合もある。		理科
Argumentation を通した新たな主張 (Claim)の創出	他者の主張(Claim), データ(Data), 根拠(Warrant)と自分との比較, 修正を十分行い, 新たな主張(Claim)を創出している。	他者の主張(Claim), データ(Data), 根拠(Warrant)と自分との比較, 修正を行い, 新たな主張(Claim)を創出している。	他者の主張(Claim), データ(Data), 根拠(Warrant)と自分との比較, 修正は十分行っていない。		理科